

平成 29 年度 第 5 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

岡田公治 井沢澄雄

5th Activity Report, October 2017: Committee of Study Groups

Koji Okada Sumio Izawa

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 29 年 10 月 1 日現在の各研究会活動の予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) リスク・マネジメント研究会

(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行っており、活動成果を研究発表大会や ProMAC で発表してきました。

今後新たな体制で、

- ・リスク・マネジメント教育
- ・テキスト分析を用いたリスクモデル

をテーマとした活動を行う予定としています。現在、**新メンバーの募集**を行っておりますので、本テーマに興味のある方は是非ご参加をお願いいたします。

【詳細問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

(2) メンタルヘルス研究会

(主査：前田英行 日立公共システム)

月 1 回の定例会と年 1 回のワークショップを中心に活動しています。



9/20 の様子

<9 月の活動実績>

9 月 20 日：定例会開催

① 2017 年ワークショップの詳細検討

タスクを洗い出し、段取りを議論しました。

② 心の仕組みの議論

脳内 3 大神経伝達物質（ドーパミン、ノルアドレナリン、セロトニン）の違いと心に対する影響について議論しました。

③ 大学院生の興味の議論

大学院での講義を題材に、現在の大学院生の興味（専門分野、人工知能、メンタルヘルスなど）について議論しました。

11 月 22 日にメンタルヘルス研究会 2017 年度ワークショップ in 岡山を開催予定です。奮ってご参加下さい。

<http://spm-hq.jp/event/detail.php?id=178>

<今後の活動予定>

10 月 18 日：定例会開催予定

11 月 15 日：定例会開催予定

11 月 22 日：ワークショップ開催予定（岡山）

12 月 20 日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(3) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 株式会社ワイハット)

当研究会の学習・研究テーマとしては以下の 6 つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析
- ⑤ 人工知能と機械学習
- ⑥ Python の学習と活用

上記のトピックの中でも、現時点では、③～⑥に力を入れています。

システム構成	パフォーマンステスト結果(レスポンスタイムmSec)		
A	200	220	210
B	240	280	260
C	220	240	260
D	200	170	200

小池利和: “ソフトウェアメトリクス統計分析入門” より引用

この表は、異なるシステム構成でレスポンスタイムを計測した結果です。システム構成によりレスポンスタイムに違いがあるかどうかを判断するにはどうしたらよいのでしょうか。この問題では、一元配置の分散分析という手法を使うことになります。このように、プロジェクトの課題を解くためには統計解析の知識が必要になり、最新の技術である統計モデルや人工知能の技術を習得するためにも、基礎統計の知識が必要となります。

当研究会では、このような知識を基礎から学んでいます。

<今後の活動予定>

11月14日：定例会開催予定

12月12日：定例会開催予定

2018年

1月16日：定例会開催予定

2月13日：定例会開催予定

会合は1回／月（原則として第2火曜日18:30~20:30）開催しています。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。

当研究会では過去の学習コンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

【詳細問合せ先】 kajiyama@yhat.co.jp

(4) PM人材育成研究会

（主査：池田 修一 ポジティブ・ラーニング）

これまでステークホルダーについて継続して議論を行っており、6月30日の定例会では、海外プロジェクト事例におけるステークホルダーとのコミュニケーションについての議論を行いました。この事例ではPMがより広いステークホルダーを特定するためには事前に様々なプロジェクトの状況や特徴を掴んでおくことが必要であることを学びました。

9月1日の定例会では、ステークホルダーでの「パートナー」について議論をしました。パート

ナーはほとんどのプロジェクトで登場する重要なステークホルダーであり、大手の企業ではシステム開発のほぼ100%をパートナーに委託している場合もあり、パートナーとの関係がプロジェクトの成功の鍵を握ります。しかし、プロジェクトの早期から発注側プロジェクトとパートナーの「思いや考え方」が少しでもずれると、後工程でそのずれはさらに大きくなり、最終的にプロジェクトのQCDに大きな影響を及ぼします。よって、いかにプロジェクト立上げ時にパートナーと良い関係性を構築できるかが課題となります。

この良い関係を築くためには、発注側の「戦略」がパートナーにうまく伝わり、またその延長として、質の高い「要件」をお互いにまとめることができるかということです。これはパートナーというよりも発注側企業がきちんとしたプロジェクトを推進できることになります。この推進力とは以下になります。

1. 戦略に伴うプロジェクトゴールの共有
2. 確実なスコープの設定
3. 全体の一体感
4. 最適な資源配置（内外製の振り分け）

つまり、発注側は戦略などのプロジェクト背景を明確にして、目的やスコープを設定し、これをプロジェクト全体でパートナーも含めて早い時期に共有するということが重要であるということです。しかし、この当たり前の活動がどの企業でも出来ていないのが実状です。よって、プロジェクト開始前の活動をより正確に行うためには何をすればよいかを検討する必要があります。最近では発注側企業において、ビジネスアナリシスの機能を組み込むことによって、上流工程の品質を上げようとしているところも多いようです。今後も発注側企業の取り組みについて、引き続き調査をしたいと思います。

次回はステークホルダーの価値観について、「キャリアアンカー」についてテーマとして議論していく予定です。

<今後の活動予定>

10月15日：定例会開催予定

11月30日：定例会開催予定

12月22日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmcom2016@freeml.com

(5) フロネシス PM（知恵ある実践）研究会

（主査：中村 太一 国立情報学研究所）

現在は、暫定的に隔月の例会開催になっており、9月14日に第43回の例会が開催されました。今回は、ゲストスピーカーは招聘せず、参加者8名

がそれぞれフロネシスPMに関する話題を提供し、そこから全員によるディスカッションを行いました。

あるメンバーからは、プロジェクトマネジメントの手法をパーソナルプロジェクトである資格取得活動や、マラソン大会への参加に活かす方法論などについての体験談が紹介されました。また、9月に開催されたカザフスタンでのIPMA世界大会に参加したメンバーから、大会のキーノートのスピーカーが、フロネシス的アプローチがプロジェクトの実務者にとって大切であることに触れていたもので、その内容の紹介など、多岐にわたる話題が提供されました。

<今後の活動予定>

11月16日：定例会開催予定

12月21日：定例会開催予定

(6) プロジェクト計画におけるQFD応用研究会

(主査：横山 真一郎 東京都市大学)

QFD (Quality Function Deployment: 品質機能展開) の考え方は品質管理だけではなく様々な活動にも援用することができます。プロジェクトを円滑に進める際にも、情報の共有や知識の蓄積のためにQFDの活用は有効です。当研究会では、研究会メンバーから提示される実際の現場における課題についてQFDの応用という観点から議論を重ねています。

研究会の初期の段階では、顧客あるいは依頼先の要望を如何に誤解せずさらに漏れなく設計に反映するかについて議論しました。そして新しいQFDのフレームなどを開発しました。さらに、要求品質の本来意味するものは何か、それを理解するためにステークホルダーをどのように整理したら良いのかなどについても議論しました。

最近では、QFD手法の開発のみならず、プロジェクトの進捗管理のための情報の定量化やQFDを活用したシステム設計、さらにリスク分析など、様々なテーマに積極的に取り組んでいます。

9月22日の定例会では、ステークホルダーの関係を考慮した進捗管理のあり方について議論しました。適切な進捗管理を行うためには、QFDを実行する際の重み付けが重要と考えて議論しました。

研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会メンバーに奨励し

ています。多くのPM学会の会員の皆様のご参加をお待ちしています。

<今後の活動予定>

10月20日：定例会開催予定

11月10日：定例会開催予定

12月15日：定例会開催予定

2018年

1月26日：定例会開催予定

2月23日：定例会開催予定

3月23日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 yokoyama.ims.tcu@gmail.com

2. 研究会活動に関するアンケート調査結果

秋季研究発表大会(8/31-9/1@福岡)にて、研究会活動に関するアンケート調査を実施し、現行研究会への認知度、並びに新研究会発足に向けたテーマニーズなどを確認いたしました(有効回答: 62件)。現行研究会に対して、興味を示される方(参加したい、活動を知りたい)が25~45%存在しており、研究会の魅力を更に発信していきたいと考えています。新たな研究会テーマとしては、「AIを活用したPM」、「アジャイル開発におけるPM」、「PMOが持つべき機能」などへの関心が高く、今後、立ち上げに向けた活動を進めてゆく予定です。

3. その他

第39回PMトワイライトサロンを10月25日に東京(八重洲)にて「ソフトウェア開発プロジェクトにおける工数見積りの妥当性評価手法」をテーマに開催予定です。奮ってご参加下さい。

<http://spm-hq.jp/event/detail.php?id=177>

また、活動中の研究会への参加希望や、新規研究会の提案に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

研究委員会委員長 岡田 公治

研究委員会副委員長 井沢 澄雄

研究委員会担当幹事 高田 淳司